

基本目標

快適な生活を支え、住み続けたいまち

政策 13 計画的土地利用の推進



施策 13-1 計画的土地利用の推進

政策 14 都市基盤の整備



施策 14-1 幹線道路と交通網の整備

施策 14-2 上下水道の維持・整備

政策 1 3 計画的土地利用の推進

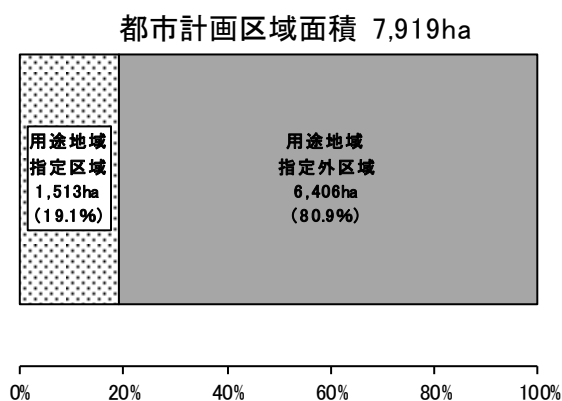
施策 1 3 - 1 計画的土地利用の推進

【現状】

- 用途地域が指定されている平地部(市街地)に人口の約 98%が居住しています。
- 中心市街地においては、商業、交通、行政、文化、医療などの都市機能を担う核が形成されています。
- 市民の憩いの場である諏訪湖周辺は公園の活用や温泉、ジョギング、サイクリングなどの利用者で賑わいがあります。

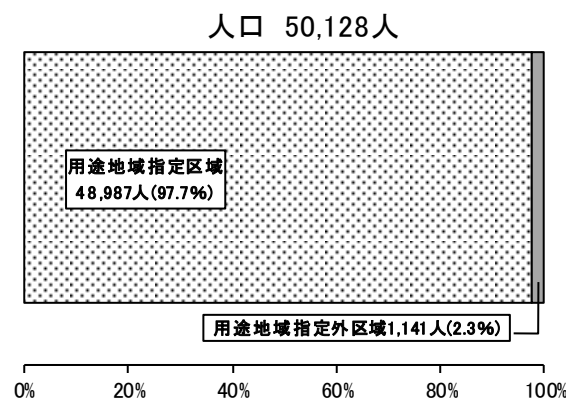
【資料・データ】

● 用途地域面積



【出典】平成28年度 岡谷市都市計画基礎調査

● 用途地域面積別人口



【出典】平成28年度 岡谷市都市計画基礎調査

【課題】

- 人口減少により、空き家等が点在することで、市街地のスポンジ化が発生することが予想されます。
- 市民の憩いの場であり、防災、避難場所としても重要な役割を果たす公園は、長寿命化を見据えた計画的な修繕などを含めた整備が求められています。
- 諏訪湖周は、公園、ジョギングロード等は充実しているものの、サイクリングロード、休息施設や親水区間の整備が求められています。
- 岡谷駅周辺は人口減少、住民ニーズの変化などから新たな計画が必要とされていますが、現在は、明確な土地利用の方向性が示されていません。

【施策展開の方針】

- 急速な人口減少に対応した居住機能、商業・医療・福祉、公共交通等のさまざまな都市機能の集約
- 諏訪湖創生ビジョンに基づいた、諏訪湖畔の水辺整備と湖辺面の利活用
- 交通結節点としての岡谷駅周辺機能の充実と活性化

【主な取り組み】

- 都市機能の集積

都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、居住機能や都市機能の誘導により持続可能な都市経営※の実現を図ります。

- 諏訪湖辺面の利活用

諏訪湖周辺整備の個別計画に基づき、諏訪湖辺面が活用できるよう整備を行い地域の活性化を図ります。

- 公園等の整備・管理

目的に添った公園整備を計画的に進めるとともに、市民の自主的、主体的な参加を得ながら適正な公園等の管理を図ります。

- 岡谷駅周辺整備

岡谷駅周辺は、官民連携による民間活力の導入などの事業手法の選択を含め、新たな時代に相応しい整備を進めます。

【成果指標(KPI)】

- 指 標 名：計画的土地利用に関する市民の満足度と不満足度

- 指標内容：岡谷市民アンケート調査による、計画的土地利用に関する市民の満足度と不満足度

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2018(平成 30)年度	終了時目標 2023 年度
計画的土地利用に関する市民の満足度	12.5%	13.8%
計画的土地利用に関する市民の不満足度	20.3%	19.0%

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市都市計画マスタープラン	2015(平成 27)年度～2034 年度
諏訪湖周サイクリングロード基本計画	2016(平成 28)年度～
諏訪湖周自転車活用推進計画	2019(平成 31)年度～
諏訪湖かわまちづくり計画	2018(平成 30)年度～2022 年度

【用語解説】

※都市経営：自治体行政を単なる地方行政としてではなく、地域行政、地域経営としてとらえ、マネジメント(経営)という考え方を自治体運営やまちづくりに適用していくことです。

政策 1 4 都市基盤の整備

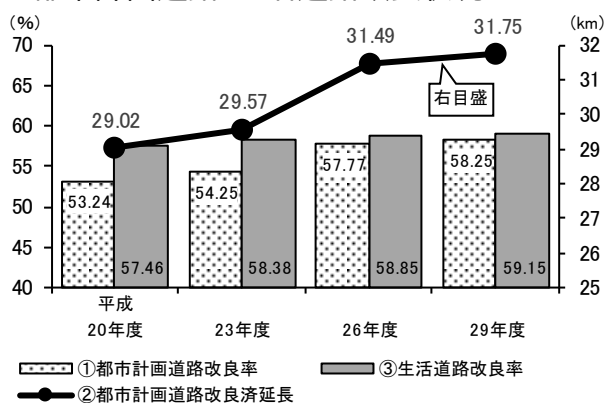
施策 1 4 - 1 幹線道路と交通網の整備

【現状】

- 岡谷都市計画道路と生活道路の改良率は、それぞれ、58.25%と 59.15%となっています。
- 公共交通網は、ネットワーク化されているものの、利便性の向上が求められています。
- 高速交通網は、地域産業の活性化や輸送時間の短縮、緊急時の代替路線としての役割を果たしており、さらなる充実が求められています。

【資料・データ】

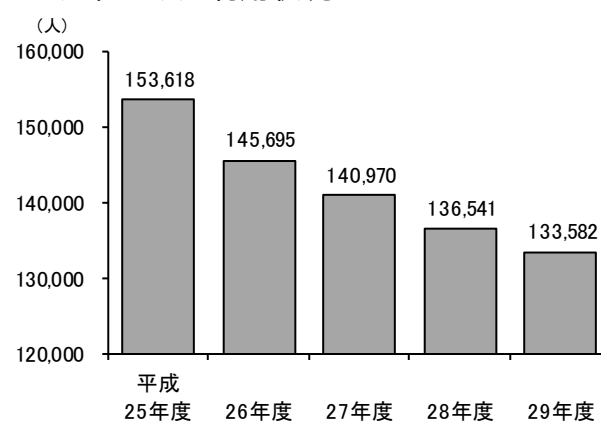
● 都市計画道路・生活道路改良状況



【出典】

①②「長野県の都市計画(資料編)」,③岡谷市建設水道部都市計画課調べ

● シルキーバスの利用状況



【出典】岡谷市産業振興部商業観光課調べ

【課題】

- 長い期間未整備路線となっている都市計画道路の整備や検討が必要です。
- 生活道路は、高齢化の進展をはじめとする社会の変化に 대응するため、拡幅や計画的な維持修繕が必要です。
- 既存の高速自動車道の有効活用や、地域生活の利便性向上、地域経済の活性化を推進するためスマートインターチェンジが必要です。
- 地域間交通や高齢化社会による交通弱者対策の視点から、コミュニティバスや鉄道等の利用者の利便性を高め、将来に渡り持続可能な公共交通としていく取り組みが必要です。

【施策展開の方針】

- 都市計画道路網に基づき、環状的な道路交通網を確保
- 生活道路の老朽化に対応する維持修繕
- 諏訪湖サービスエリアへのスマートインターチェンジの整備
- J R 中央本線の高速化、複線化による利便性向上

【主な取り組み】

● 幹線道路の整備

未改良区間の幹線道路整備に努めるとともに、国道20号下諏訪岡谷バイパスについて、国との連携により事業推進を図ります。

● 生活道路の維持管理

生活道路については、日常的な点検や市民などからの通報等による初期対応を行うとともに計画的な修繕による維持管理を行い、長寿命化を図ります。

● (仮)諏訪湖スマートインターチェンジの整備

諏訪湖サービスエリアへのスマートインターチェンジ整備の事業推進を図ります。

● 公共交通網の利用促進

公共交通網の起点となる、岡谷駅周辺や岡谷市民病院のバスターミナルとしての利便性の充実に努めるとともに、多くの方に親しまれ、利用しやすい公共交通機関として利用促進に努めます。

【成果指標(KPI)】

● 指標名：①都市計画道路の改良率

②舗装修繕率

③シルキーバスの利用者数

● 指標内容：①都市計画道路の改良状況(改良済延長÷計画延長×100)

②主要幹線道路の舗装修繕状況(主要幹線舗装修繕延長÷主要幹線延長×100)

③シルキーバスの年間利用者数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成29)年度	終了時目標 2023年度
①都市計画道路の改良率	58.26%	60.00%
②舗装修繕率	9.43%	37.51%
③シルキーバスの利用者数	133,582人	139,000人

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市都市計画マスタープラン	2015(平成27)年度～2034年度

政策 1 4 都市基盤の整備

施策 1 4 - 2 上下水道の維持・整備

【現状】

- 水道施設は老朽化に対応するため、計画的に対策を進めています。
- 下水道施設は健全な状況となっていますが、20 年後には約半数の施設が耐用年数を経過するため、長寿命化により改築の平準化を図っています。
- 上下水道の経営では、給水人口が減少し上下水道料金収入の減少が続くと想定されるため、「経営戦略」を策定し、安定的な経営に努めています。

【資料・データ】

上水道の計画

項目	2015(平成27)年度	2023年度
給水人口	50,880人	47,207人
有収水量 [※]	14,860 ^{m³} /日	13,775 ^{m³} /日

下水道の計画

項目	2015(平成27)年度	2023年度
水洗化人口	49,522人	45,951人
処理汚水量	5,702 ^{千^{m³}} /年	5,320 ^{千^{m³}} /年

【出典】岡谷市建設水道部水道課調べ

【課題】

- 上下水道事業は人口の減少に伴う給排水量の減少や施設の改築など、さまざまな影響を受け、経営環境は厳しさを増しています。
- 上水道の施設は、配水池などの主要施設において老朽化が進んでおり、減少する給水需要に合わせ、水源の統廃合を見据えながら、耐震化を含め早期に更新する必要があります。
- 上下水道の老朽化管路の更新や長寿命化にあたっては、適切な資産管理のもと費用の平準化を図りながら進める必要があります。
- 下水道の排水処理は、諏訪湖流域下水道により実施していますが、施設の老朽化が進んでおり、計画的な改築が必要となっていることから、改築負担金の増加が予想されます。
- 豪雨などによる浸水被害軽減のため、雨水渠整備が必要となっています。

【施策展開の方針】

- 自然と調和し、安心な暮らしを支え、信頼される水道事業の継続
- 衛生的で快適な環境を守り、市民の安全な暮らしを支える下水道事業の継続
- 将来に向け、適正な収支による健全経営の持続

【主な取り組み】

- 老朽施設の計画的な更新及び再構築

上下水道の個別計画により、安心して上下水道が利用できるよう、老朽化施設の更新や再構築、耐震化を計画的に実施します。

- 企業会計の安定的経営

人口の減少等に伴う収益の減少、老朽化施設の更新に伴う事業費の増大など、企業経営の厳しい状況に対し、支出の削減や施設更新の平準化などの取り組みにより、経営戦略を見直しながら安定した経営を進めます。

- 浸水被害の軽減

雨水渠事業を計画的に推進し、浸水被害の軽減をめざします。

【成果指標(KPI)】

- 指標名：①上水道管路の耐震化率(耐震化済管路延長÷全管路延長×100)

②下水道管路の耐震化率(耐震化済管路延長÷全管路延長×100)

- 指標内容：重要施設における水道供給と排水の確保のため耐震化率

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2015(平成 27)年度	終了時目標 2023 年度
①上水道管路の耐震化率	13.8%	18.5%
②下水道管路の耐震化率	54.6%	58.2%

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
下水道ストックマネジメント計画	随時更新
下水道総合地震対策計画	2013(平成 25)年度～最終 2027 年度予定
水道事業基本計画	2015(平成 27)年度～2034 年度
上下水道経営戦略	2018(平成 30)年度～2027 年度

【用語解説】

※有収水量：料金徴収の基礎となった水量のことです。

